

令和元年度 第1回

希望郷いわてモニターアンケート

多文化共生に関する意識調査

【報告書】

令和元年8月

岩手県政策地域部国際室

I アンケート調査の概要

【多文化共生について】

「多文化共生」とは、国籍や民族等の違いにかかわらず、全ての人がお互いの文化的背景や考え方を理解し、地域社会を支える主体として共に生きることです。

1 調査課題名

多文化共生に関する意識調査

2 調査の目的

調査結果を、岩手県多文化共生推進プランの改訂及び本県の多文化共生施策の推進の参考としようとするもの。

3 調査内容

- (1) 「多文化共生」の認知度
- (2) 外国人との接触意識
- (3) 外国人住民についての意識
- (4) 外国人住民とのつきあい
- (5) 外国人住民に期待すること
- (6) 多文化共生のためにしたいこと
- (7) ILCに期待する効果
- (8) 多文化共生のために必要な取組
- (9) 多文化共生についての自由意見

4 調査期間

平成31年4月10日(水)～4月24日(水)

5 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

6 調査対象

令和元年度希望郷いわてモニター 259名

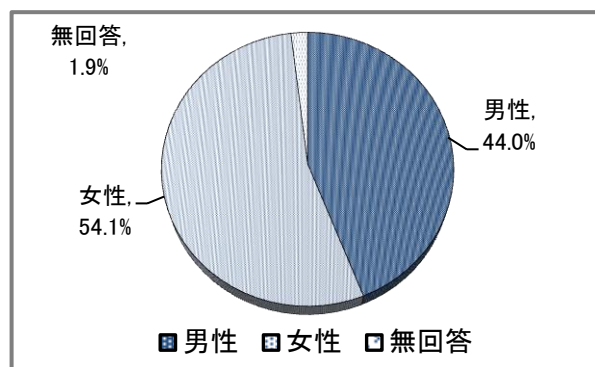
7 回答者数

209名(81.6%)

8 回答者内訳

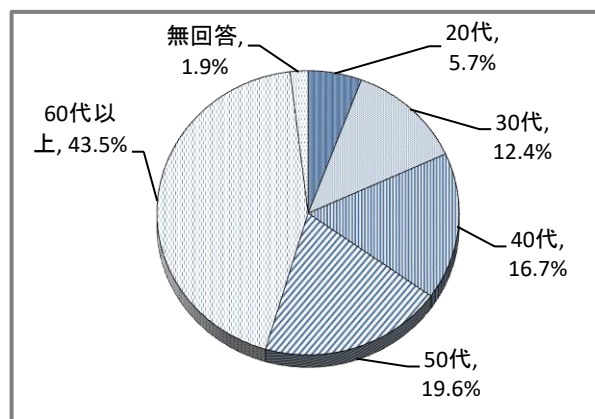
(1) 性別

男性	92
女性	113
無回答	4
計	209



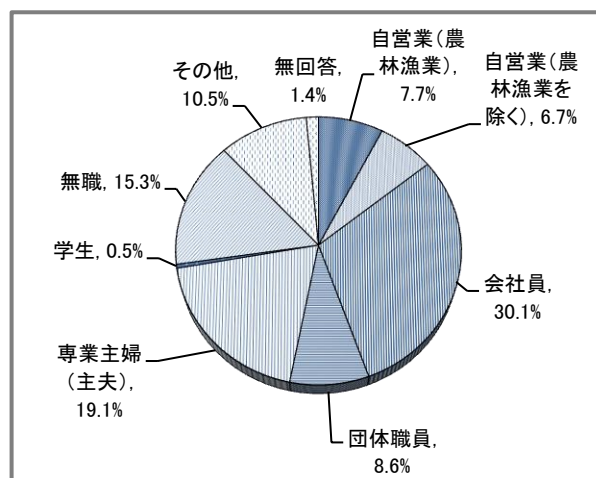
(2) 年齢

	男性	女性	合計
20代	4	8	12
30代	8	18	26
40代	17	18	35
50代	13	28	41
60代以上	50	41	91
無回答	-	-	4
計	92	113	209



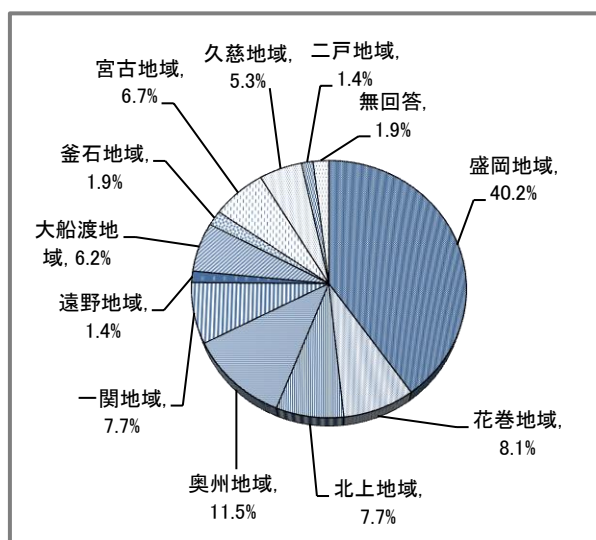
(3) 職業

	男性	女性	合計
自営業(農林漁業)	12	4	16
自営業(農林漁業を除く)	8	6	14
会社員	32	31	63
団体職員	12	6	18
専業主婦(主夫)	1	39	40
学生	1	0	1
無職	21	11	32
その他	5	17	22
無回答	-	-	3
計	92	114	209



(4) 居住地

	男性	女性	合計
盛岡地域	33	51	84
花巻地域	8	9	17
北上地域	6	10	16
奥州地域	9	15	24
一関地域	10	6	16
遠野地域	1	2	3
大船渡地域	8	5	13
釜石地域	3	1	4
宮古地域	7	7	14
久慈地域	4	7	11
二戸地域	3	0	3
無回答	-	-	4
計	92	113	209

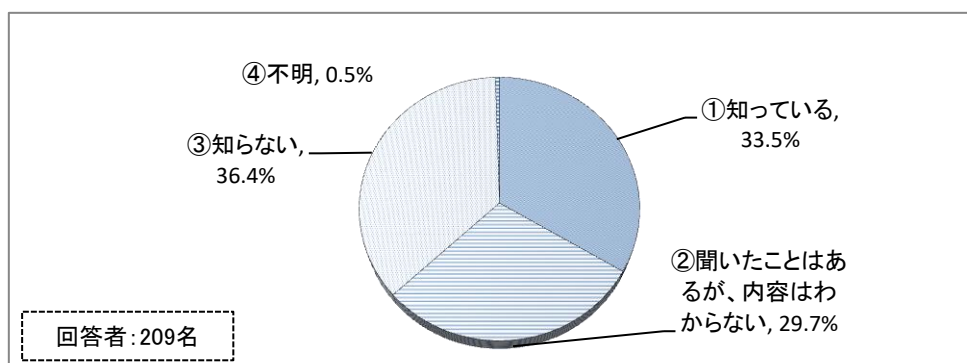


[注 グラフの使い分けについて]

1つを選択する質問については回答の割合を示すために円グラフを、複数を選択する質問や回答内容の分析については、回答数を示すために棒グラフを使用しています。

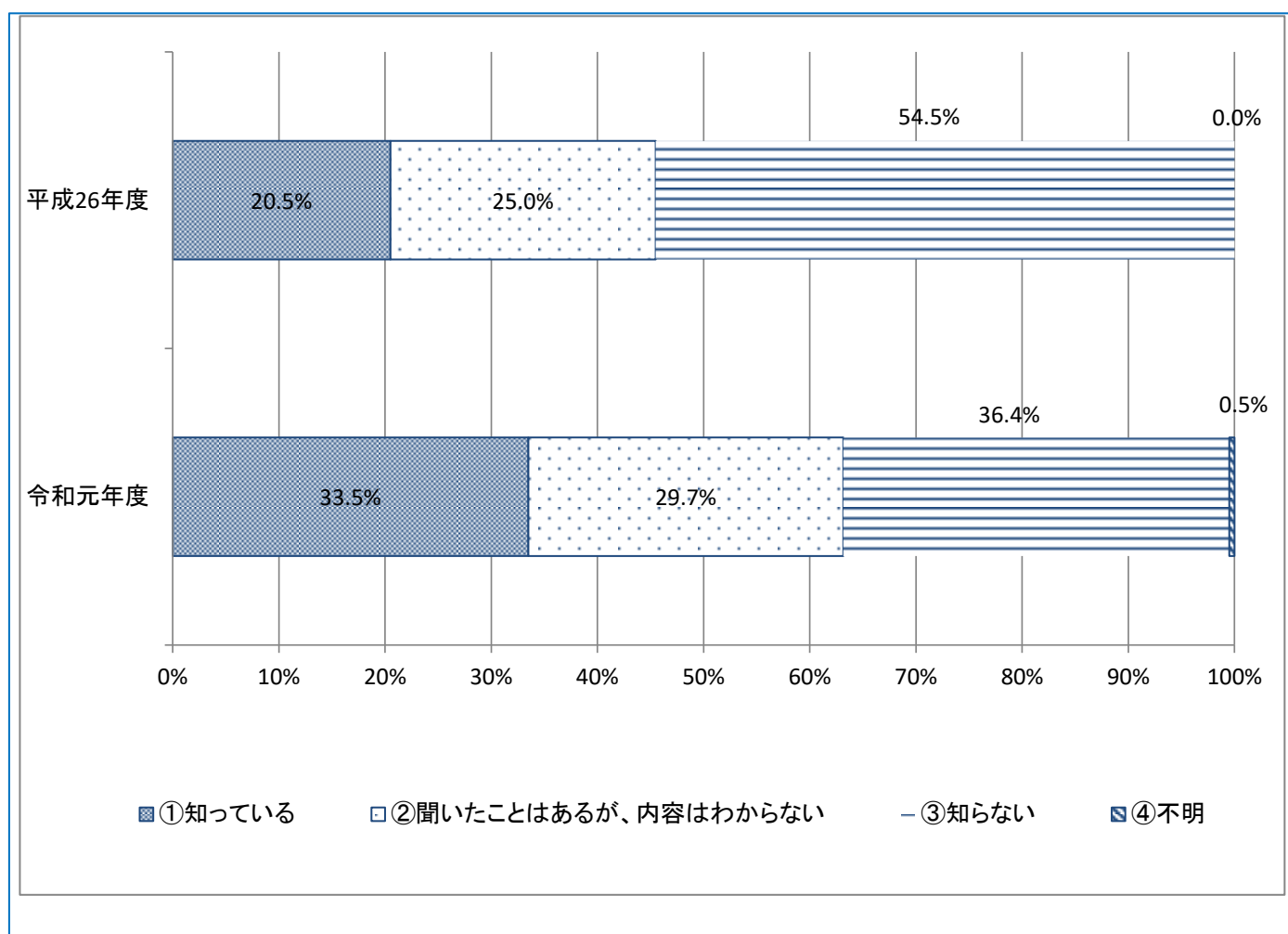
Ⅱ アンケート集計結果

問1 「多文化共生」ということばを御存知でしたか。



- 「知っている」と答えた人の割合は、全体の33.5%にとどまっている。
- 「知っている」と答えた人と「聞いたことはあるが、内容はわからない」と答えた人を足した割合は、全体の63.2%と半分以上を占めている。

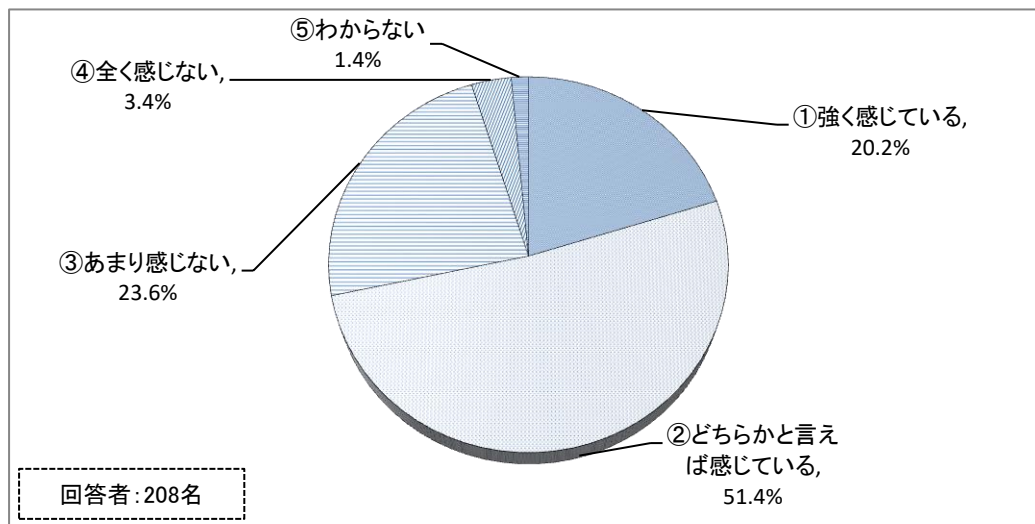
<参考：過去の調査結果との比較>



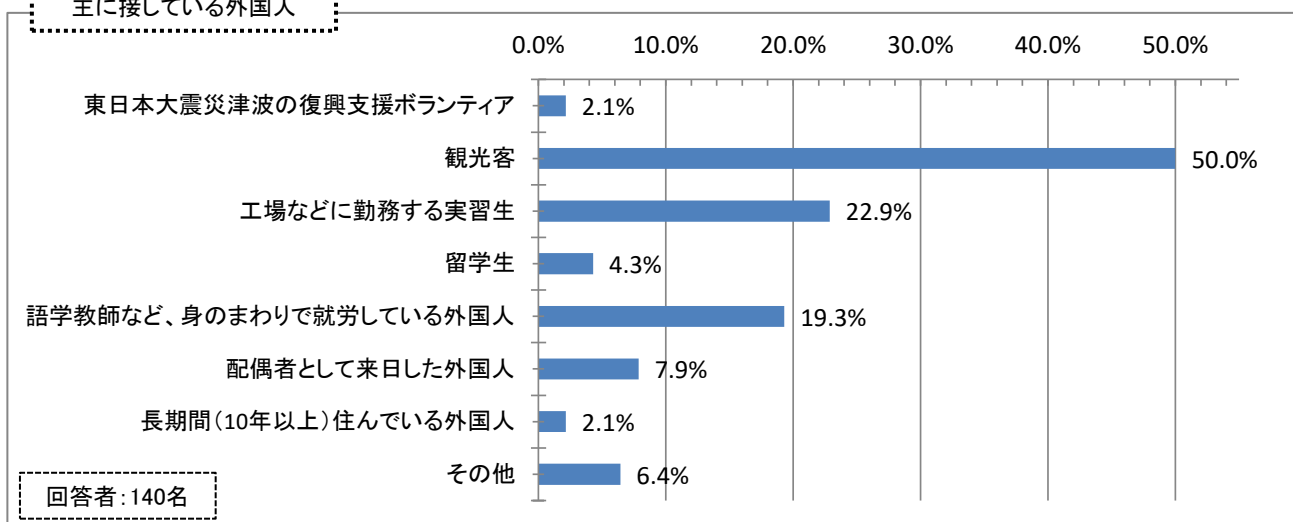
- 「知っている」と答えた人の割合は、平成26年度調査から13.1%増加し、これまでで最多の割合にのぼった。
- 「知らない」と答えた人の割合は、平成26年度調査から17.9%減少した。

問2 岩手県民が外国人と接する機会が増えていると感じますか。

(①強く感じている又は②どちらかと言えば感じていると回答した方は、主に接していると感じる外国人を1つ選択)



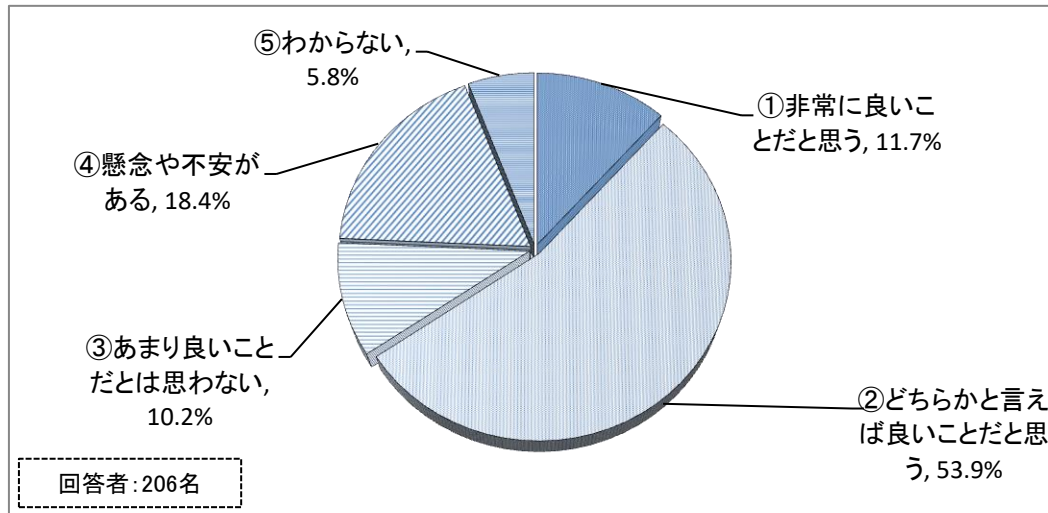
主に接している外国人



○ 岩手県民が外国人と接する機会が増えていると感じている人(「強く感じている」または「どちらかと言えば感じている」と答えた人)の割合は、71.6%と過半数を超えている。

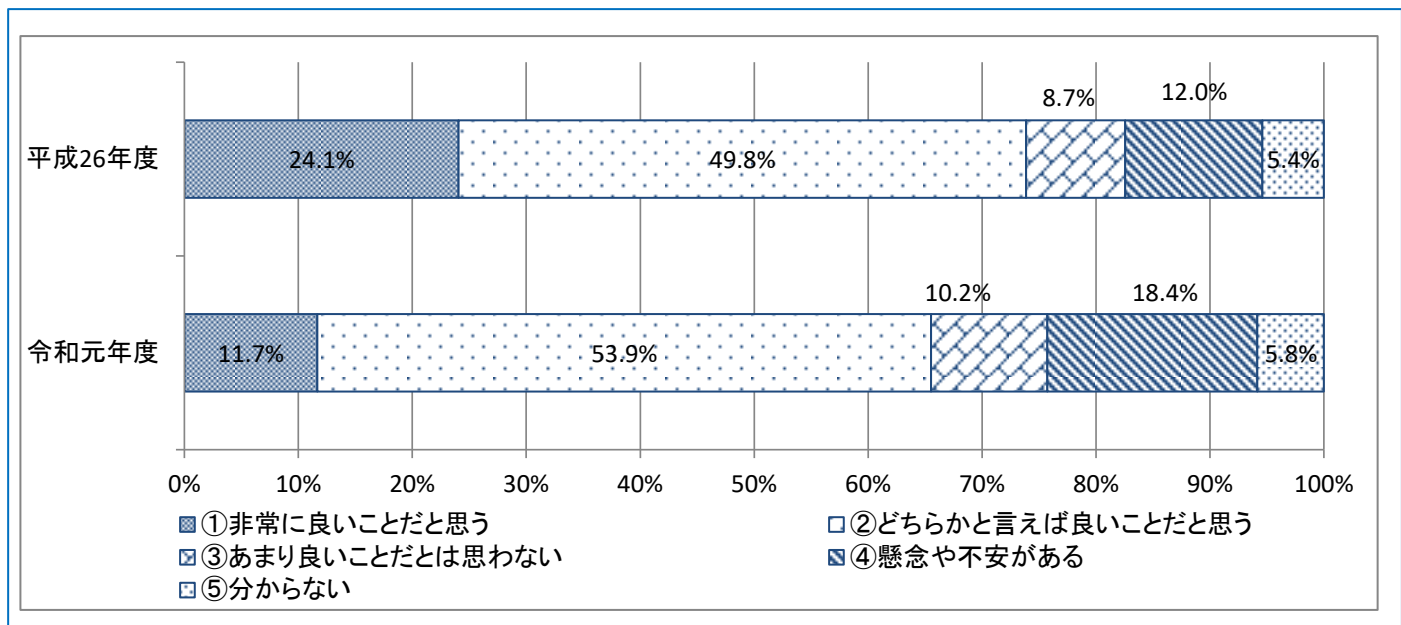
○ 岩手県民が主に接する外国人として、「観光客」を筆頭に、次いで「工場などに勤務する実習生」、「語学教師など、身のまわりで就労している外国人」の割合が高い。

問3-1 外国人住民が増えることについてどのように思いますか。



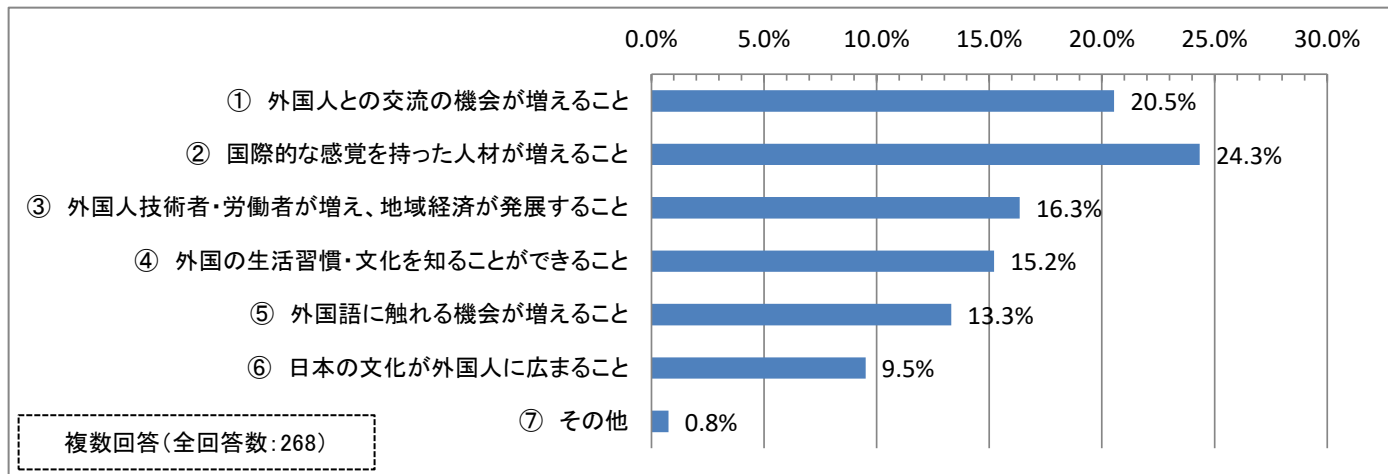
- 外国人住民が増えることについて好意的に答えた人(「非常に良いことだと思う」または「どちらかと言えば良いことだと思う」と答えた人)の割合は、65.6%と過半数を超えている。
- 外国人住民が増えることについて消極的に答えた人(「あまり良いことだとは思わない」または「懸念や不安がある」と答えた人)の割合は、28.6%にのぼっている。

<参考: 過去の調査結果との比較>



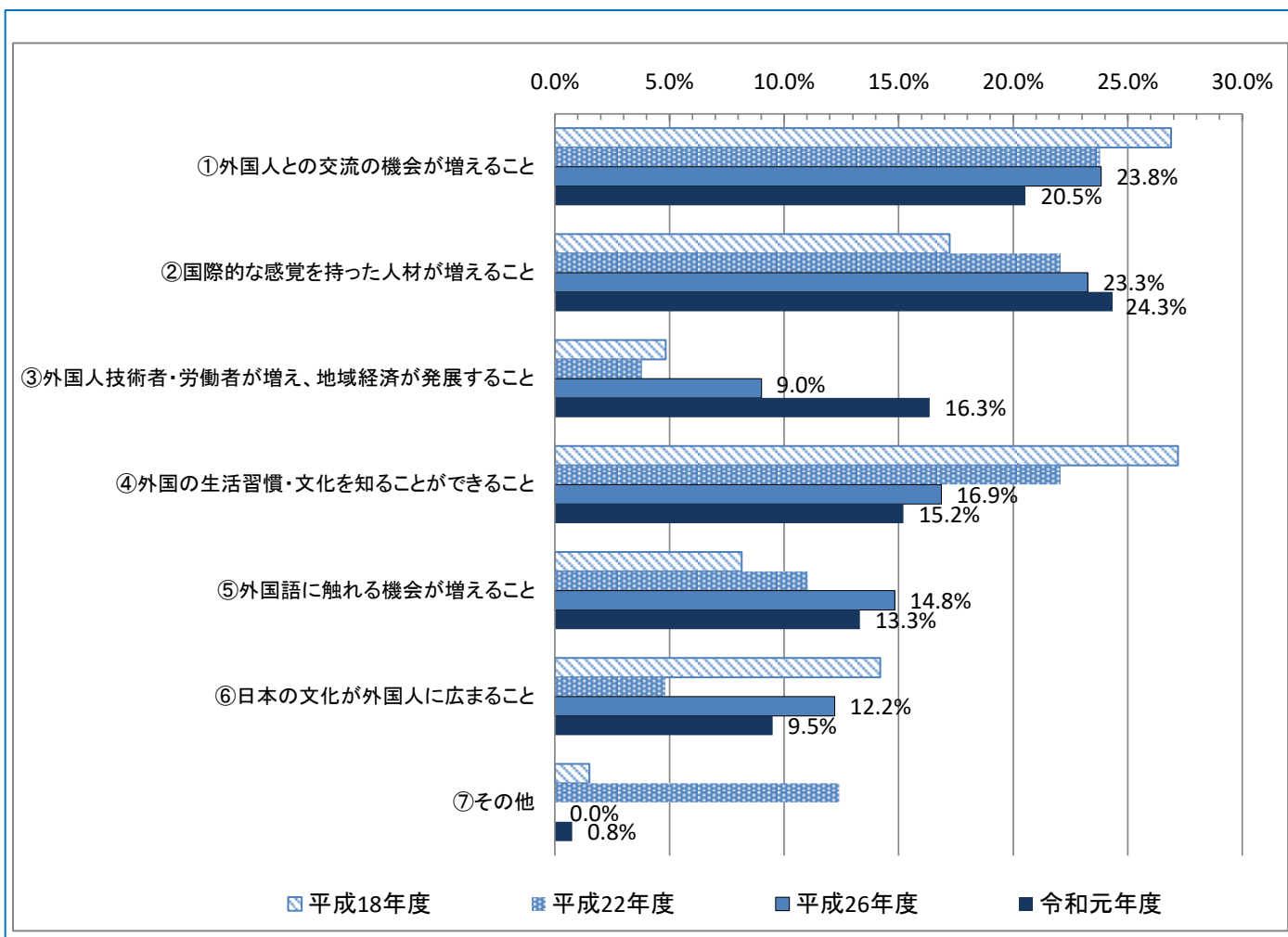
- 外国人住民が増えることについて好意的に答えた人(「非常に良いことだと思う」または「どちらかと言えば良いことだと思う」と答えた人)の割合は、平成26年度調査から8.3%減少した。
- 外国人住民が増えることについて消極的に答えた人(「あまり良いことだとは思わない」または「懸念や不安がある」と答えた人)の割合は、これまでで最大の割合にのぼった。

問3-2 (問3で①非常に良いことだと思う又は②どちらかと言えば良いことだと思うと回答した方)
地域に外国人が増えることで、どんなことを期待しますか。(2つまで選んで回答)



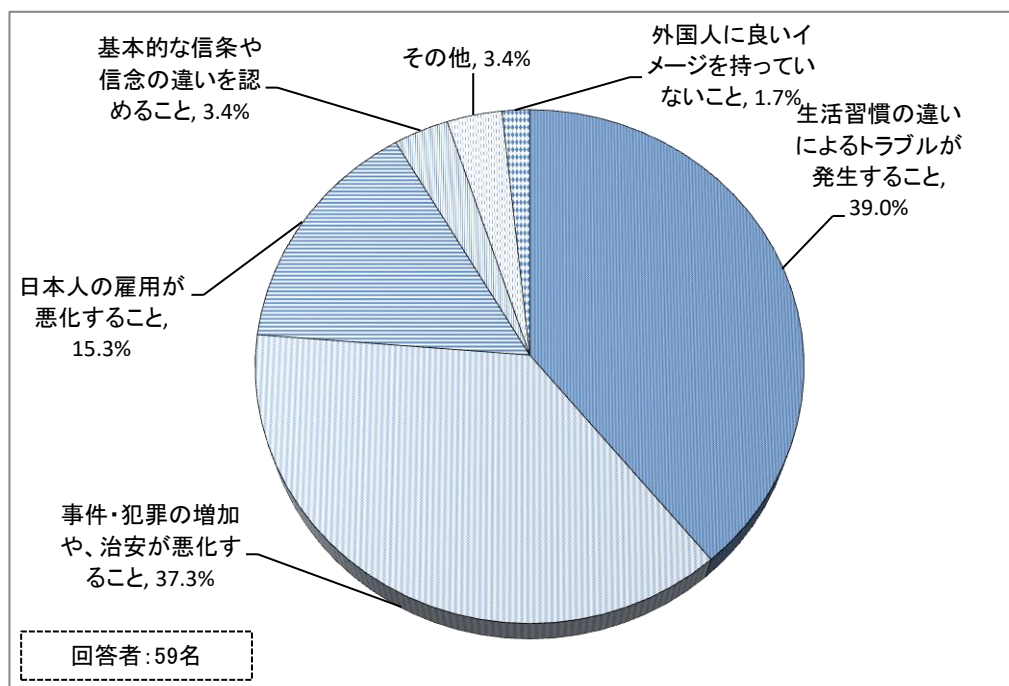
○ 地域に外国人が増えることで、外国人との交流機会や国際的な感覚を持った人材の増加が特に期待されている。

<参考: 過去の調査結果との比較>



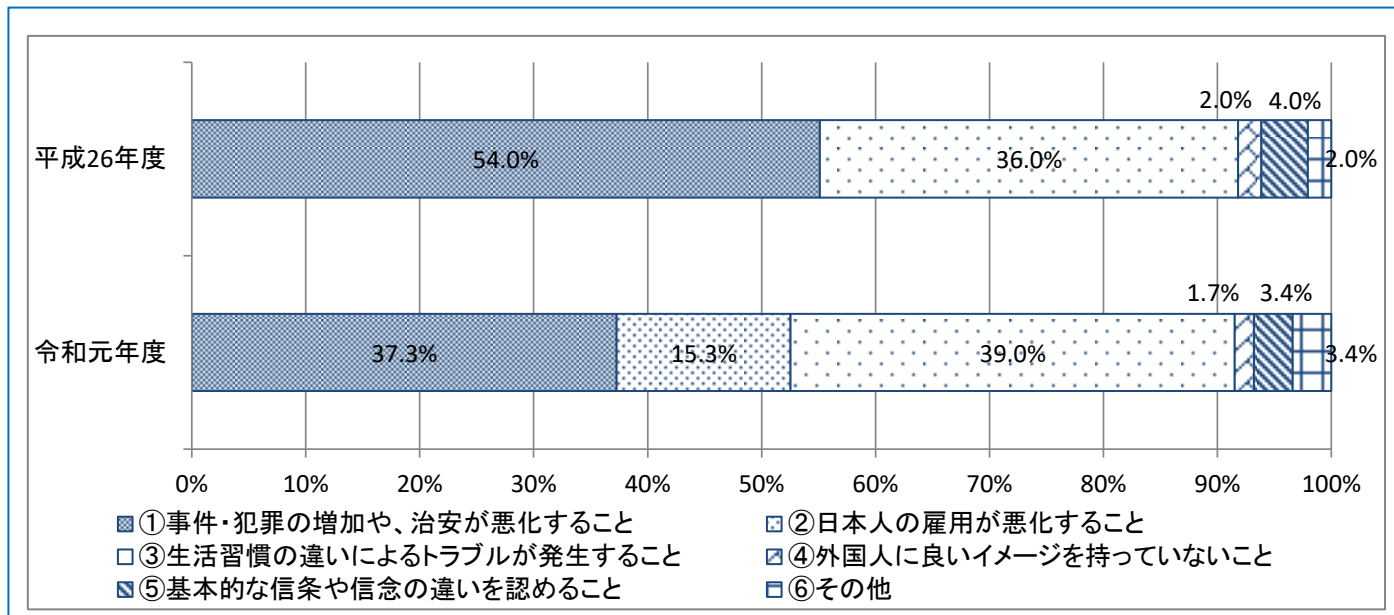
- 今回を含む4回の調査の中で、国際的な感覚を持った人材が増えることに期待する割合が最も高いのは、今回の調査が初めて。
- 外国人技術者・労働者が増え、地域経済が発展することに対する期待が高まっている。
- 調査の回を追うごとに、外国の生活習慣・文化を知ることへの期待の割合が低くなっている。

問3-3 (問3で③あまり良いことだとは思わない又は④懸念や不安があると回答した方) どのようなことを懸念したり、不安に思ったりしますか。(1つ選んで回答)



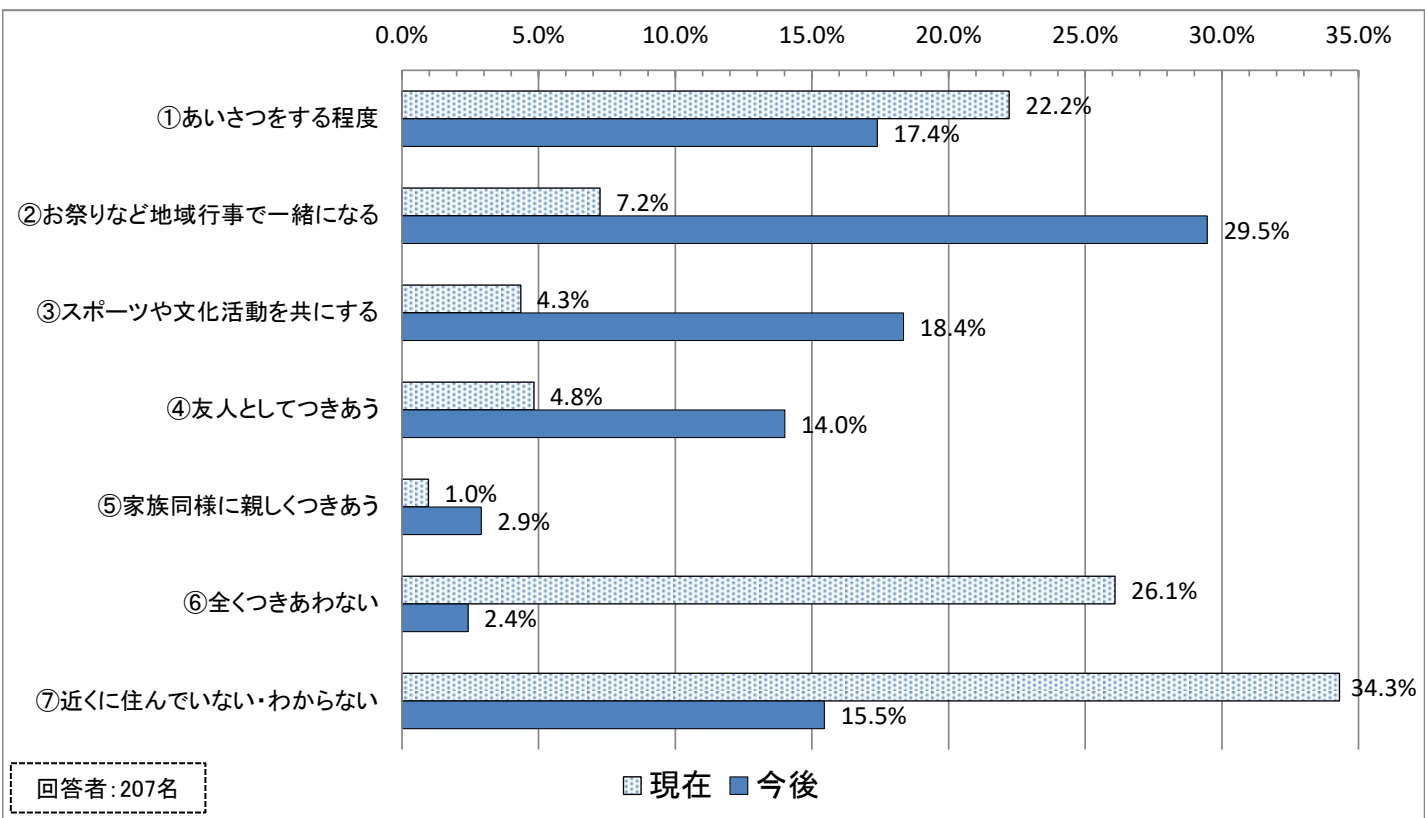
- 生活習慣の違いによるトラブルが発生することに対する懸念や不安を回答する割合が最も高い。
- 次に、事件・犯罪の増加や治安が悪化することに対する懸念や不安を回答する割合が高い。

<参考: 過去の調査結果との比較>



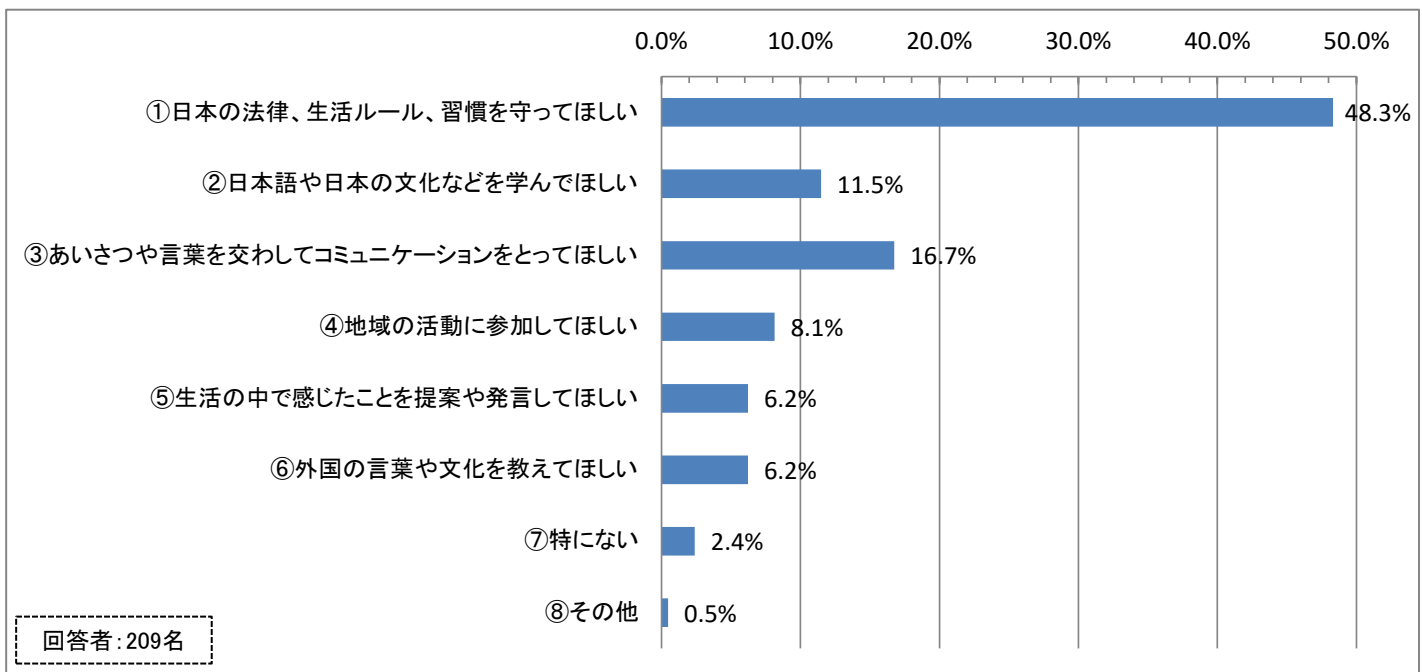
- 事件・犯罪の増加や治安が悪化することに対して懸念や不安が、平成26年度から16.7%減少している。
- 日本人の雇用が悪化することへの懸念・不安があると答えた人の割合が0%から14.0%に増加し、生活習慣の違いによるトラブルが発生することへの懸念・不安があると答えた人の割合が11.0%増加している。

問4 あなたは現在、地域に暮らす外国人とどのようなつきあいがありますか。また、今後どのように接していきたいと思いますか。(現在と今後について、1つ選んで回答)



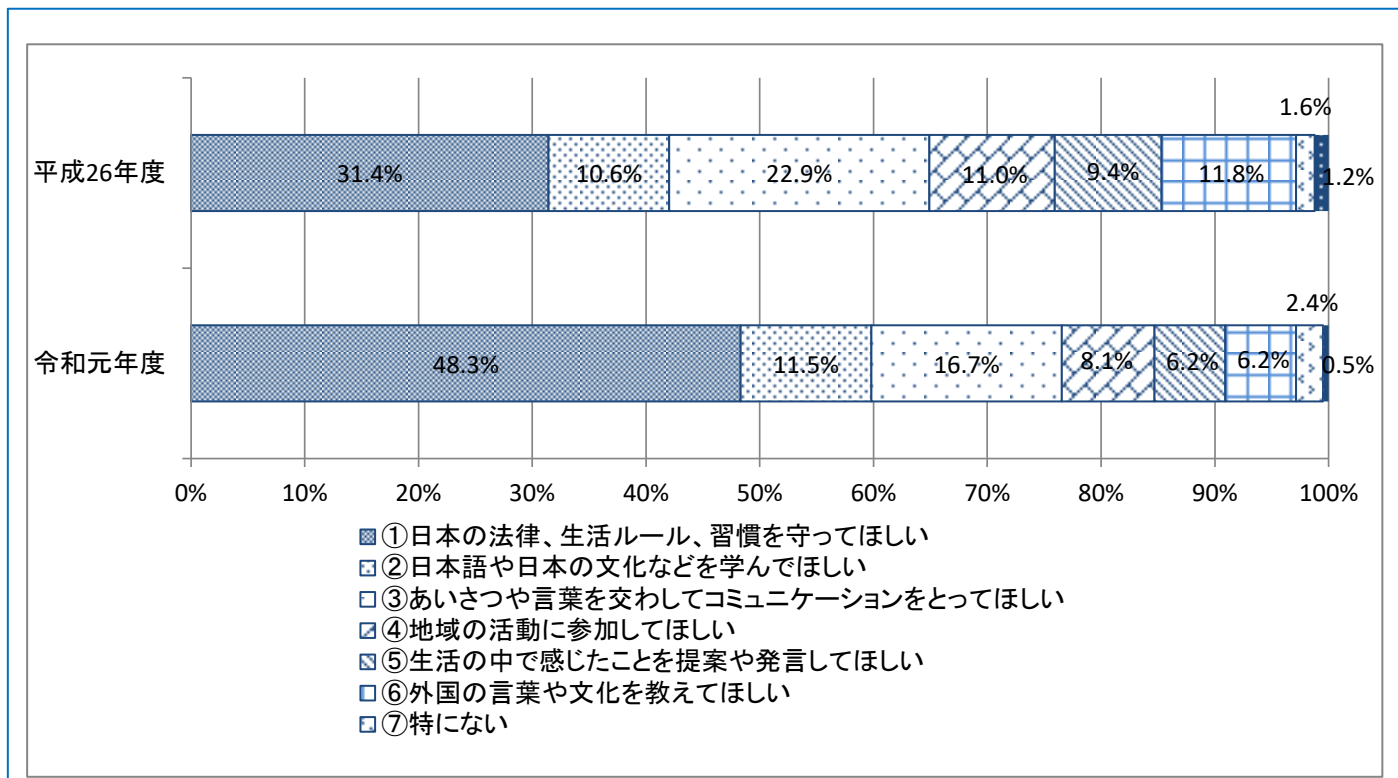
- 現状として、「近くに住んでいない・わからない」と回答した人が最も多く、全体の34.3%を占めている。
- 今後のつきあいについて、「お祭りなど地域行事で一緒になる」「スポーツや文化活動を共にする」「友人としてつきあう」の3項目の割合が、現在と比べて高くなっているほか、「全くつきあわない」と回答した人の割合が現在と比べて大きく減少していることから、外国人との交流に対して積極的な姿勢がみとれる。

問5 外国人住民と共に暮らしやすい社会にするために、外国人住民にどのようなことを期待しますか。(1つ選んで回答)



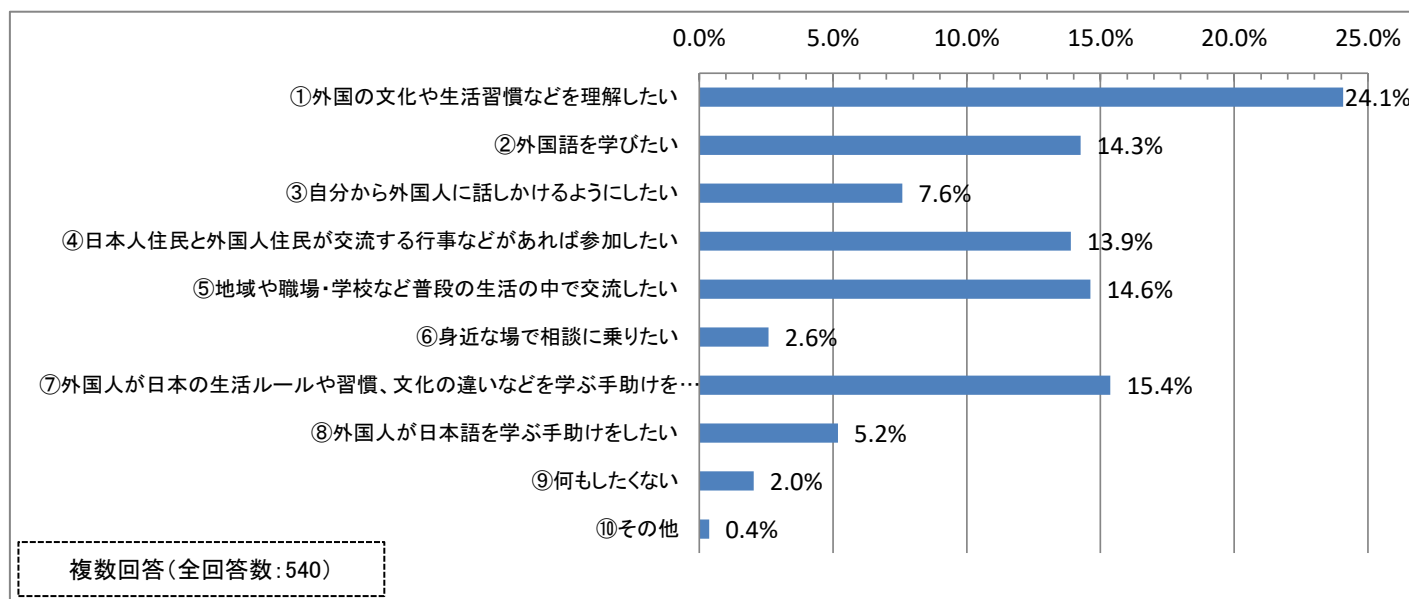
○ 外国人住民に期待することとして、「日本の法律、生活ルール、習慣を守ってほしい」と回答した人の割合が過半数近くを占めている。

<参考: 過去の調査結果との比較>



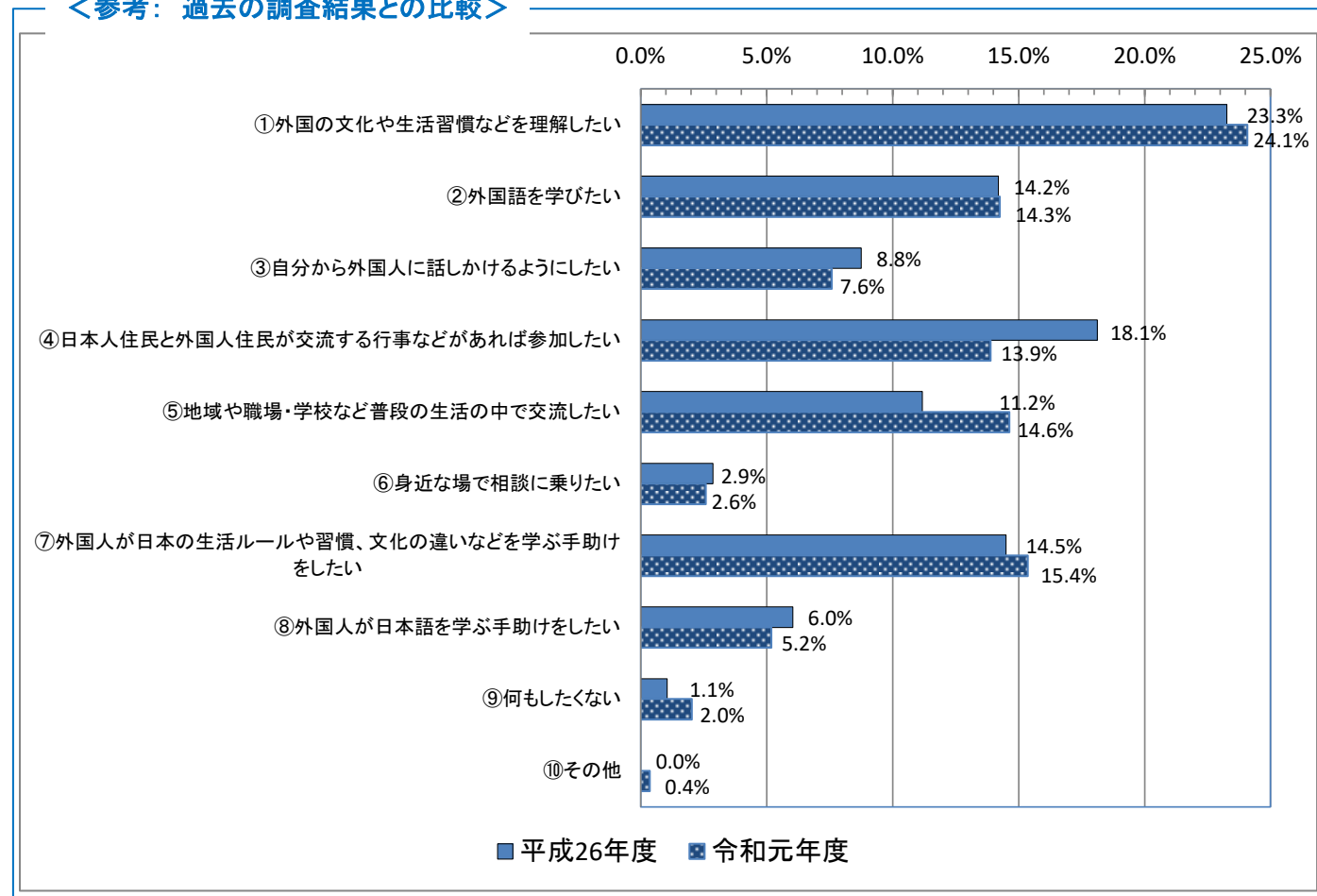
○ 「日本の法律、生活ルール、習慣を守る」ことへの期待が、平成26年度調査から16.9%増加している。

問6 外国人住民と共に暮らしやすい社会にするために、あなたはどのようなことがしたいですか。(3つまで選んで回答)



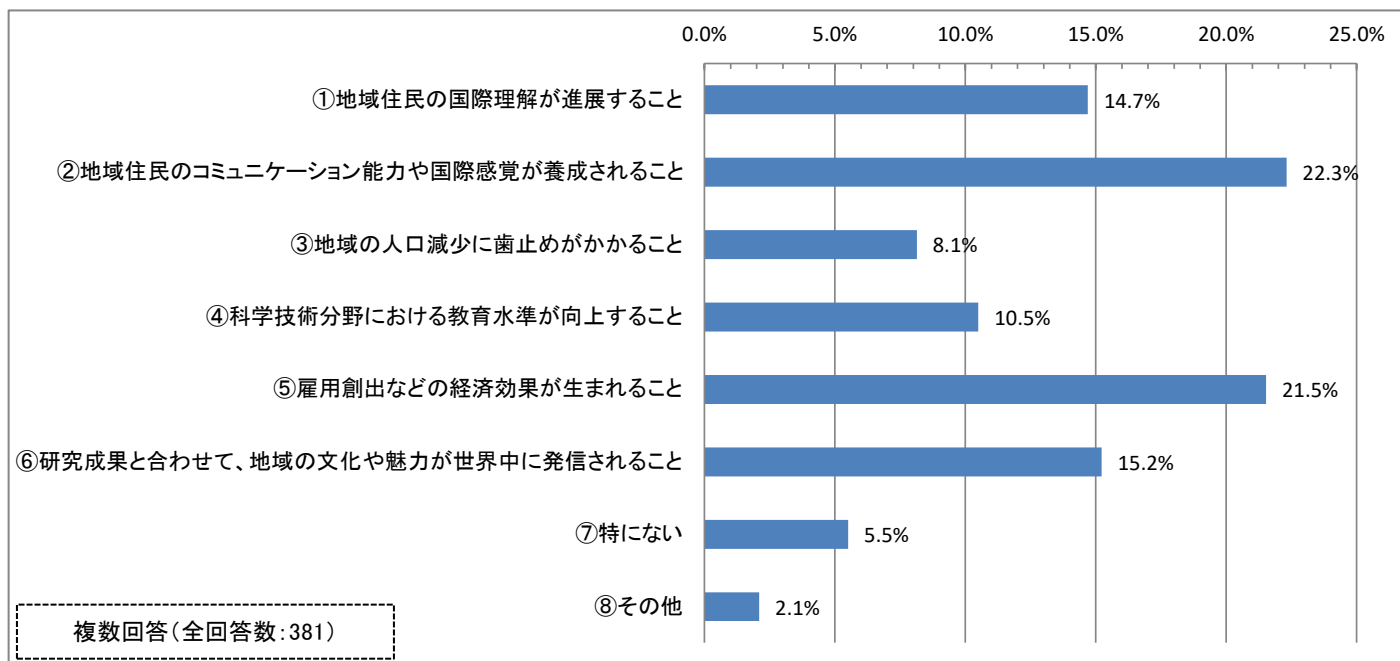
○ 外国の文化や生活習慣の理解への意欲を示す回答の割合が最も高い。

<参考: 過去の調査結果との比較>



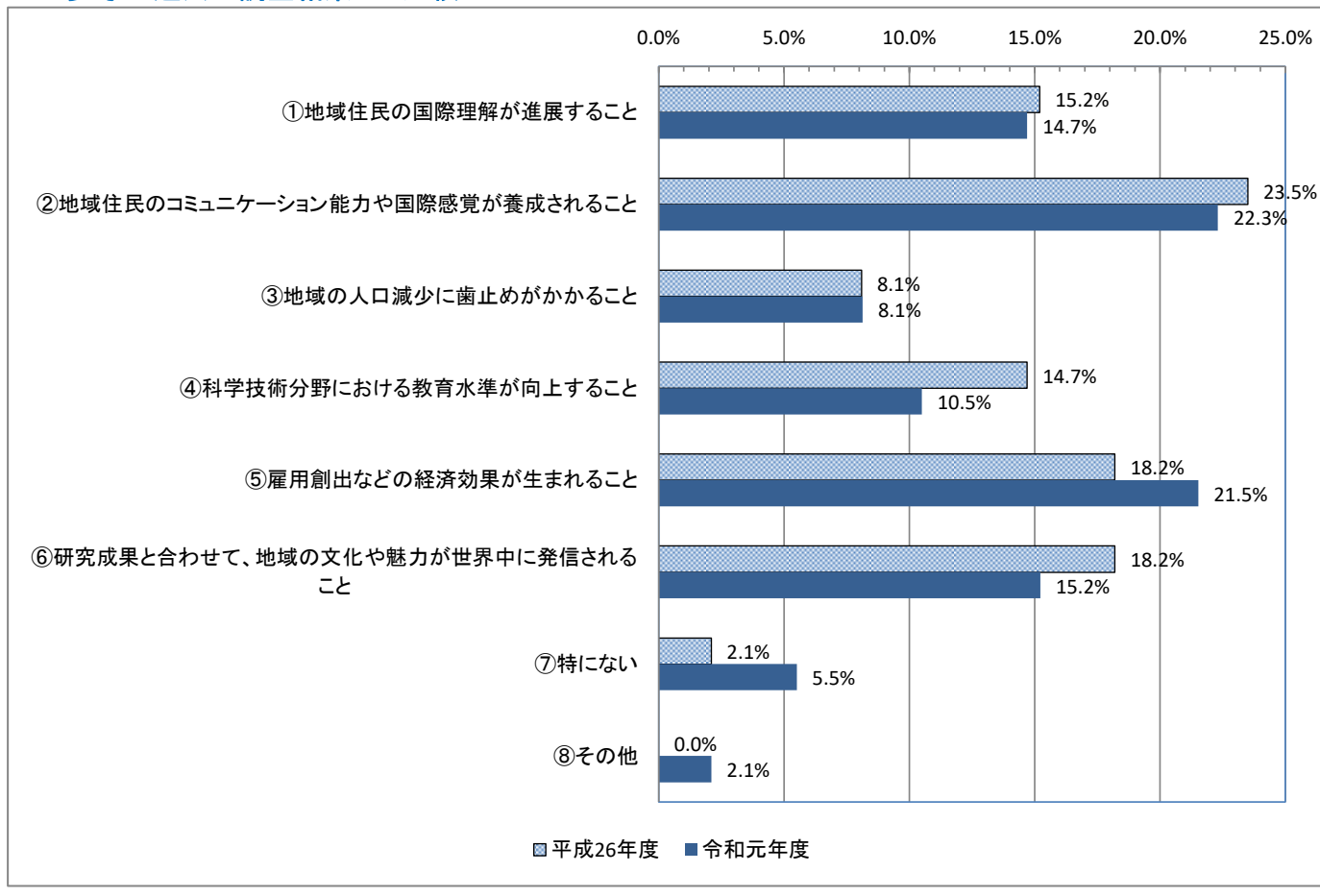
○ 「外国の文化や生活習慣の理解したい」と回答する割合が増加し続けている一方、「日本人住民と外国人住民が交流する行事などに参加したい」と回答した割合は減少し続けている。

問7 ILCの実現により、世界最先端の研究を行うため、海外から大勢の優秀な研究者やその家族などが本県に移住することが予想されますが、このことについてあなたはどのような効果を期待しますか。(2つまで選んで回答)



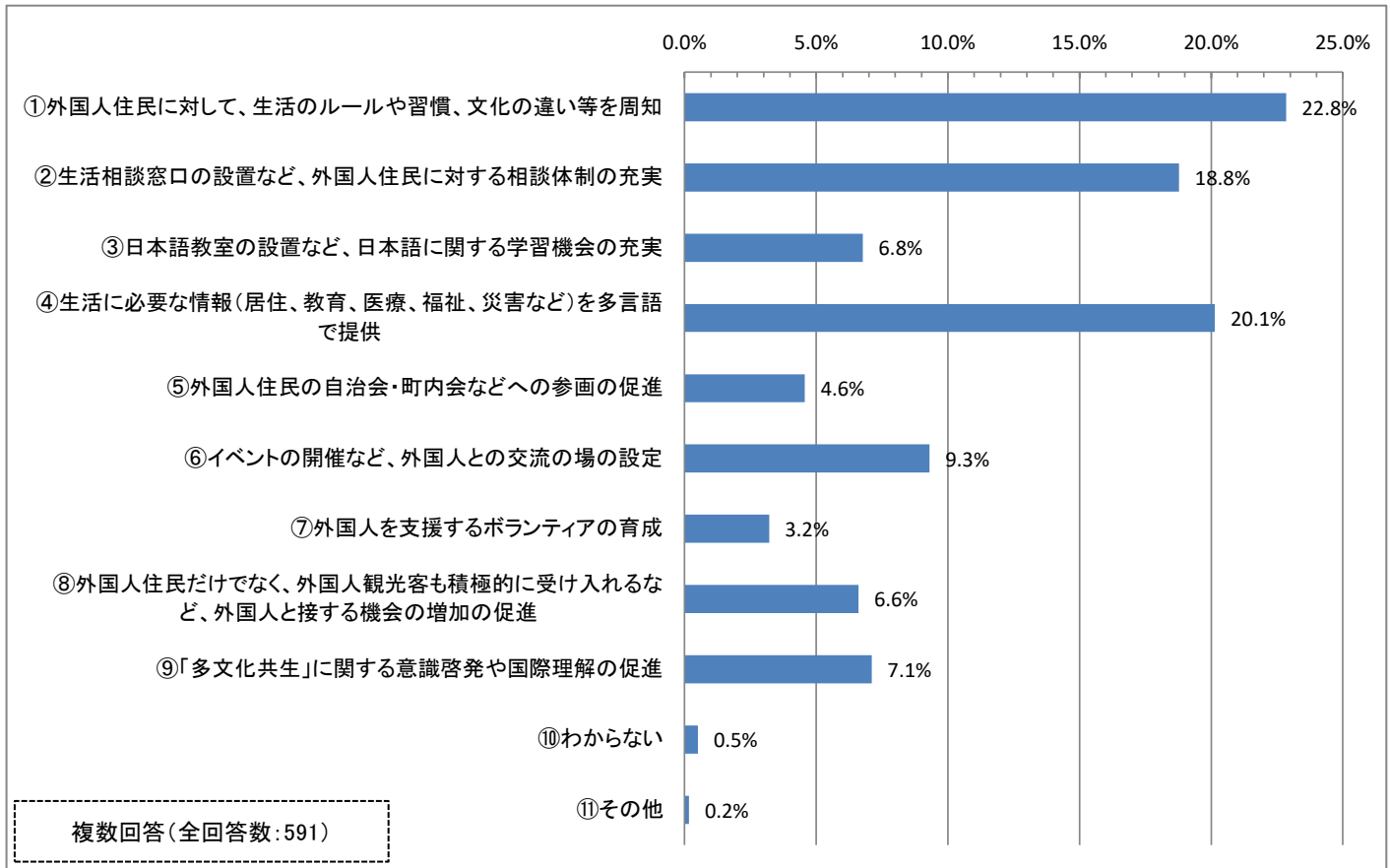
○ ILC実現の効果として、「地域住民のコミュニケーション能力や国際感覚が養成されること」が最も期待されており、次いで、「雇用創出などの経済効果が生まれること」が期待されている。

<参考：過去の調査結果との比較>



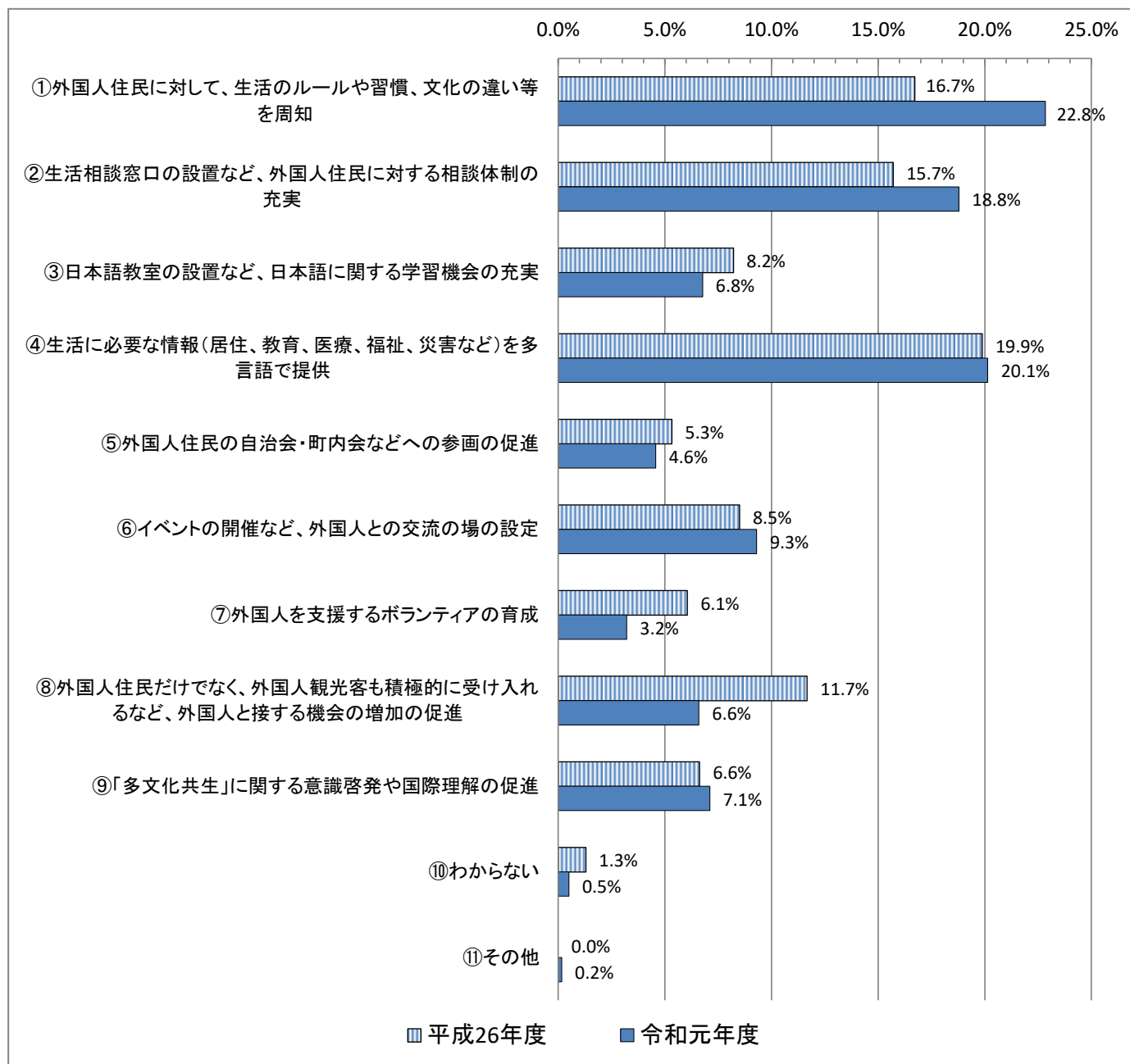
○ 「雇用創出などの経済効果が生まれること」に対する期待が平成26年度調査から高まっている。

問8 多文化共生社会づくりのためにどんな取組が必要だと思いますか。(3つまで選んで回答)



○ 「生活のルールや習慣、文化の違い等の周知」、「生活に必要な情報の多言語提供」、「相談体制の充実」が必要だと考える人の割合が高い。

＜参考：過去の調査結果との比較＞



- 「外国人住民に対して、生活のルールや習慣、文化の違い等を周知」することの必要性を感じると回答した割合が平成26年度調査から6.1%増加している。
- 上記以外で、過去の調査結果と比べて、「生活に必要な情報を多言語で提供」することに係る取組が必要だと考える人の割合が高くなっている。

問9 その他、多文化共生について、御意見等ありましたら、御記入ください。

【寄せられたご意見等 87件】

- | | |
|----------------------------|-----|
| ○ 「多文化共生」の啓発に関する事 | 2件 |
| ○ 多文化共生の理解やその醸成に関する事 | 6件 |
| ○ お互いに理解し合う姿勢に関する事 | 9件 |
| ○ 多文化共生社会のイメージや自身の関わりに関する事 | 13件 |
| ○ 多文化共生社会の懸念に関する事 | 7件 |
| ○ 多文化共生社会に向けた取組に関する事 | 21件 |
| ○ 外国人に求める事に関する事 | 1件 |
| ○ 自身の経験に関する事 | 9件 |
| ○ 自身の今後の活動等に関する事 | 3件 |
| ○ ILGに関する事 | 3件 |
| ○ その他 | 13件 |

問9 その他、多文化共生について、御意見等ありましたら、御記入ください。

○ 「多文化共生」の啓発

- ・ 地域住民に対して「多文化共生社会」について理解を深めるような意識啓発を図ること。
- ・ たまに外国人を見かけても定住者か観光客なのかわからない。そもそも外国人との交流が少ないので多文化共生に対する意識が低い。

○ 多文化共生の理解やその醸成

- ・ 自分の年代だと外国人には一歩引いてしまいますが、小中高学生の若い年代の人たちにはどんどんと接してもらい、人種差別することが無く、グローバルな人間になってもらうという世代間交流等、地域住民と仲良くなればいい。
- ・ 地域の大切な仲間として乳幼児から大人まで学び合ったり、楽しんだり、親しくなることから始めることが重要と思われる。
- ・ 将来、身近に様々な国籍の人が居る日常を普通感じられるようになると思う。その様々な社会に対応するため、様々な交流やコミュニケーションを通じて「自分とは違った考えや文化を理解する」心を住民一人ひとりが持つ様になっていくべきだと思う。
- ・ 外国人が日本で生活するためには、文化の違い言葉の違いなど多くの壁があることを理解し、やさしい目と言葉を向けることが必要と思われる。
- ・ 海外にも行くので、自分の立場が変わると、どうなるかを考えれば様々な事に気が付く。花巻も海外との定期便ができたので、若い方々にはぜひ自分から異文化へ飛び込んでほしい。共生の理解は頭だけではむずかしい。また、ツーリストと定住者への対応はニーズが違うので、それぞれ寄りそえればいい。
- ・ いろいろな国の人が観光や学習、就労の目的で日本、そして岩手を訪れて生活するようになった。しかし、話しかけたい、相手を理解したい、困っている時手助けしたいと思っても、言葉が通じるか不安で声を出せない。言葉の壁の存在は大きい。
逆の立場で考えてみると、言葉も分からず、生活習慣も全く分からない国にやってきて、学んだり働いたりするには大きな不安があるだろう。困っていても助けを求められない人がいるのではないか。異なる言葉、文化を持つ世界の人が、相手の国や文化や生活習慣を正しく理解してお互いに高め合える関係性をつくっていきたい。そのための学習の場、交流の機会、支援の組織があるといいと思う。
- ・ 大切な事は地域の住民が外国人が共に暮らすことが良いことであるというプラスの心だと思う。地域コミュニティが外国人を喜んで受け入れるように変わる必要がある。また、社会はパラダイムシフトが起こり、変わっているため、色々な事が変わる、変えていくという考える事も重要である。「地域」がしっかり変わらなければならないと考える。ところで「ILC」は地域住民の日々の生活のなかでどんなプラスな事が起きるのか。

○ お互いに理解し合う姿勢

- ・ 多文化の1つは私達が住む日本の文化。日本の文化と他の(いろいろな国の)文化の違いを感じると、日本の文化を「あ、こんなに違うんだ」と再確認することができる。日本に来る外国人には最低限、日本文化を理解してほしいと思う。トイレでの作法は違いが大きすぎて、とても面白い。時として大きな誤解を生む可能性がある。
- ・ 今はどの観光地へ行っても外国の方が多くて日本経済にも大きな影響がある。また、私の住んでいる所では農家での実習生さんが来ている。皆さんとても真面目だが、やはり生活習慣などの違いもあるのでは…と少し不安に思うところもある。トラブル等が発生しないようにするためにもお互いにコミュニケーションをとれる機会が増えればいいなと思っている。
- ・ 私は同じ所で同じ空気を一緒に吸っている人をあえて外国人と分ける事はないと思う。フラットでつきあっていいのでは。その中でお互いに得るものを交換すればいいと思う。
- ・ 外国人との理解を深めていくことはいいことだと思う。でも、日本の文化もしっかり守ってほしいと思うし、日本人を大切にしていく仕組みをしっかりやってほしい。これからどんどん外国人が増えていくと思うが、治安を守ってほしい。
- ・ ホームステイ(homestay)の活用で外国人との共生・共感・共存の「3共意識」を基に双方が養う必要性を感じる。
- ・ これから外国人が増えていくのは必須であると思うので不安な心から排除するのではなく、相互理解の方面へ取組ができればいいと思う。
- ・ まずは、話しかけてみる。
どうにかコミュニケーションをとろうとする姿勢が必要。
話しかけてみれば外国の方が柔軟にこちらに合わせてくれる。

- ・人口減少と叫ばれている中で、海外の方も受入、お互いの事を尊重し、言葉や習慣の違いを受入などすれば、岩手県に限らず、どこの都道府県も、住みやすい環境を作って住む事が可能だと思う。私達が英語などで話し、海外の人も日本語を知っていれば何不自由なくコミュニケーションをとる事ができると思う。
- ・外国人も日本人もお互いにプラスになるようマナーを守ってもらうことと、外国人(中国・韓国・ブラジル等)の特性を理解し、未然にトラブルを防ぐようにすると良いと思う。

○ 多文化共生社会のイメージや自身の関わり

- ・多文化共生はこれからの地球にとってもとても素晴らしく大切なことだと思う。それでなくても地球温暖化が進みその影響で思いもかけない自然災害が多発し、地球全体が危機的状況にあるにもかかわらず国際関係も危ぶまれる状況であると感じられることが多々ある。多文化共生そのことが岩手県→東北→日本→アジア→そして地球全体の理解と平和的共存に繋がると信じていたい。
- ・まだ、現実として近所に海外の方々が居ないのでわからないが、言葉を含むコミュニケーション力が大切かと思う。お互いのコミュニケーションから、それぞれの文化の違いも理解できるのではないかと思う。
- ・外国人が来ることは地域にとって良いことだと思う。特に、若い人には外国に興味を持つきっかけになると思う。外国の文化に触れることで、地域の抱える問題(高齢化社会や環境問題など)をどのように考えているか参考にすれば良いと思うので、多文化共生には賛成。
- ・出身国がアジア系、ヨーロッパ系、アメリカ系とそれぞれ文化が違い、対応も違って来ると思うが、対応する自信が無い。
- ・十人十色ということわざがあるように、一人一人が広い視野をもって新しいこと、新しい人、色んなことに興味を持ち、たくさんの人と共有できればと思う。
- ・外人と聞くと一部ですが犯罪が発生してるので受け入れられない怖さと不安がある。交流を持ち日本文化を広めたりしたいと思う。介護の現場に受け入れて欲しいと思う。
- ・個人的に多文化共生はお互い刺激のある生活が送れると思う。文化、言語などの違いが新しい発見となるのは良い事だが、その違いによって生まれるトラブル、犯罪が起こりうるという不安がやはりある。情報をいろいろ発信してほしい。
- ・差別と判断されてしまうかもしれないが、相手の国籍によって不安や懸念の度合いが全く違う。観光地で集団で大声で騒いでいる外国人を見ると、どうしても受け入れることができない。スーパーの試食を全部食べてしまう集団も同じ国籍と思われた。一方、英会話学術等の教師の外国人とは普通に應對することができている。受入側の意識も変えなければ、とも思うが、難しい問題である。
- ・住みやすいと感じてもらって外国人が増えるのは良いこと。外国人を雇用する会社も増えてほしい。外国人による気軽な外国語教室のようなところがあれば通ってみたい。
- ・個人での交流は限界がある。
- ・「多文化共生」ということばを聞くと大変難しいことだと考えてしまうが、外国人と接したいという気持ちは大いにあるので、交流する機会をどんどん発信していただければと思う。「案ずるより産むが易い」の気持ちがあれば大丈夫。
- ・多文化についてテレビなどを通じて知っている程度の情報が多いのが一般的だ。直接的に肌で感じられる機会の場が必要だ。
- ・県、市町村行政機関が率先して外国人を採用する。

○ 多文化共生社会の懸念

- ・他国の文化や思想などを知る良い機会とは感じてはいるが、実際外国人が関係する物騒な事件や事故なども発生しているので、一概に大賛成とは言いづらいところもある。私の住んでいる地域にも外国人労働者がおり、職場の近くにアパートを借りて複数人で住んでいるようだ。地域のお祭などで見かけたが、出店の前などで小学生の女子児童に話しかけているのを見たとき、大変申し訳ないが一瞬でも不安を感じた。何も起きなければそれでいい。ただ、ちゃんと企業での教育や、自身の他国で生活することへの自覚を養って臨んでほしいと願う。
- ・人口減少に伴い雇用形態が変わり、外国人が移住することは理解できる。ただ、文化の違いで様々なトラブルが予想されるので行政や地域でしっかりとした取り組みが必要だと思う。
- ・小さな市内で特定の個人がアジア系の人々を連れてきて、働かせているケースが見受けられるが、いかなるものか。

- ・ 外国人が増える事は良い事だと思うが、文化の違いはあるので治安や風紀が乱れる事が心配。イベントや交流会だけでなく安全面もしっかり考える必要があると思う。
- ・ 多文化共生は初めて耳にする言葉。あまり外にでて情報など得られない環境、又年齢であるが、多文化共生は日本本来の風土が失われるため外国人が留人する社会をつくる事は日本文化継承からいえば、よくないのではないかと考える。それにともなって異文化をとり入れることは犯罪などを受け入れるということにもつながっていくのではないかと考えます。日本古来の文化が外国文化と同一化すれば日本人としての沽券にかかわっていくのではないか。
- ・ (1) 岩手県にも「中国の事業家」が国家的支援のもとに観光施設土地などを取得する違法な開発があると聞く。一種の地域(地方)侵略行為ではないか。(八幡平市で聞く)
- ・ (2) 大船渡市の企業で働いている(研修?)外国人(中国の女性)はすべて集団行為であり、一般市民との接点(交流)はまったくない。何かの対策・対応策がないものか。
- ・ 多文化・多言語の感覚は大事だが、善良な外国人ばかりではないので(特に純情な若者は)気を付けた方がいいと思う。

○ 多文化共生社会に向けた取組

- ・ 言葉や習慣の違いは寛容な心で接していかなければならない。しかし国際的な対応の仕方を学ぶ必要もある。経済も政治も国際的になって行くのは時代の要求であるのだから、社会環境の中で教育という方法で広めて行くのも必要ではないか。
- ・ トイレの使い方が汚いとか、何処でも大声で話すのでうるさいとか、サービス品を根こそぎ持ち帰るだとか、一部の定住外国人に対する悪いイメージがある。それでも彼らが働き手として貴重であることは分かるので、雇用する側の教育義務として、「ここに暮らすならこういうことに気を配りましょう」、「周りに習いましょう」といった日本の当たり前の感覚を教えてあげるべきだと思う。
- ・ 話せないことで、どう関わっていいかわからない、怖い。近寄らないと、連鎖してしまうと思うので、言葉の壁をまず低くするサポートに力を入れて欲しい。自発的ではきっとやらないので、通訳ボランティアなどを挟み、しばらくはパン粉のように繋ぐ役割が必要だと思う。子どもを通してだとスムーズなので、子どもの場所を筆頭に地域に密接した関係を取ればいいと感じる。
- ・ まだまだ外国人が多く住んでいる県ではないので、積極的に彼らが住みやすい地域などを作るのも良いと思う。高齢化も進んでいるので雇用し、共存できる県でありたい。子供も小さいのでぜひ外国の方ともっと触れ合える機会を増やしたい。世界は広くていろいろな人や文化があることを教えたい。
- ・ 語学の習得をできる環境をもっと増やして欲しい。
- ・ 外国人の方々と接する場が一般にも広がれば、ぜひ参加したい。
- ・ なかなか外国人と接する機会がないので、イベント等で、参加しやすいものなど、きっかけがほしい。
- ・ 少しでも多くの外国人との交流の場を設けて活動をしていきたいと思う場を設けて頂きたい。
- ・ 震災があった時の窓口。
- ・ 子ども達を外国で学ばせて、小さいうちから国際的感覚や国際的教育水準を上げて、岩手、世界を背負って活躍する人材育成。
行政には、長い目で見て今後の岩手のあるべきすがたや役割を、中央ではなく地方として考えてほしい。
- ・ 基本的には日本の生活にあわせてもらう事で何か出来るとすると、わからない事などサポートする事ではないか。
- ・ ラグビーW杯もあり、釜石だけでなく盛岡でも外国の人が増えてきているので(店のメニューとか)情報を多言語で出すこと。
- ・ 他国の言語や文化を学ぶ事は、地域住民のためにもなる。ただ免疫のない高齢者が多い事やおとなしく閉鎖的な県民性を考えると、難しい課題だと思う。まずは安心して外国人を迎えるような知識とシステムがあると良いと思う。
- ・ 留学生によるお国柄紹介するイベントの開催し、外国人との交流の場が設定されると良い。
県央に国際ユースホステルがあってほしい。若い人が旅を通して現地の文化や環境にふれることできるし、安全性というインパクトを感じる。
- ・ お互いの国を理解する為、各国とのホームステイを活発に行う。
- ・ 母国の政情不安や内戦などによる難民や日本で技術を学びたい実習生、留学生などとの交流の場を行政が設けてほしい。(少しでも意識を高め理解するため)
- ・ 外国人住民と共に暮らしやすい社会にするためには、外国人住民との交流する場を行事・イベントなどを開催することが多文化共生社会づくりに必要。
- ・ 多文化共生は、いわてに来る外国人との関係だけではないと思う。外部者と交流の少ない地域に居ると感じにくくなると思うが、小さな社会での暗黙のルールを強要(外部を排除)しようとする意識が根深いところを変えていく必要があると思う。

- ・ 外国人毎にガイドブックを作成して、多文化と共生するためのポイントなど広く県民に知識技能を教えてほしい。
- ・ アイヌの文化など古くからある多文化をまず理解していくことが必要だと思うかもしれない。
- ・ 何か国語も話せたら世界が広がっていいことだと思う。しかし、詐偽なども多いので、良い事ばかりではなく、リスクも小学生のうちから教えるべきだと思う。

○ 外国人に求めること

- ・ 移住の時は、同国の人・親戚など、自分にとっても頼れる人がいる所に移って来てほしい。まず心の安定が大事と考える。

○ 自身の経験

- ・ 以前に比べれば、岩手県内でも外国人を見かける機会は増えたかな、と思うが、関東に比べればまだまだ多文化共生には程遠いと感じる。
外国人、ということだけで壁を感じてしまったり、どうコミュニケーションを取って良いかわからない、という声もよく聞く。
私自身、学生時代、何人かホームステイを受け入れて来たので、スイス、オーストラリア、ドイツにホストシスターがいる。自分自身も短期のホームステイを何度か経験したので、学生時代の国際交流の経験が、いまでも役立っている。
自治体などが主体となって地域に住んでいる外国人の方々との交流の場を設けてくれれば、地域の人々の外国人に対する視野がもっともっと広がっていくのかな、とよく思う。
私自身も、交流の場があれば是非参加したいなと思っている。
高校、短大と国際文化学科だったこともあり、多少は英語を使えるので、活かせるお仕事等があれば是非挑戦したいな、とも思う。
- ・ 任意団体(国際交流協会、ユネスコ協会など)に対する各自治体の取組に格差がある。(経済的、物理的ななど)。その他の団体でも積極的に外国人等との交流を図っている。小生も15年前に韓国の中・高・大学生13名との交流機会があり県内の名所・旧跡見学そしてクロスカントリースキークの研修会を実施している。
- ・ 大学が2校ある地域に住んでいるが、まったく外国人との交流がありません。近郊・小学生との交流などあっても良いと感じるし、活動的ではないと感じている。
- ・ 意見ではないが、私が職場で各国の外国人(実習生)と生活を共にしてきて感じた事。国元で勉強はしてくると思うが、日本人(私達)の前では良い行動でも一旦離れるとルールなど守ることなく過ごす事が多い。注意しても言葉が通じないことで、のがれられる。挨拶を交わすコミュニケーションが大事だとつくづく思う。
- ・ 平成26年ごろより高校生、大学生を体験民泊している。タイ、ミャンマー、ニュージーランド、主にアジアの人達。1泊2泊は文化の違い等もお互いのコミュニケーションで楽しんでいる。短い時でも生活すると言うことは都会とちがって地域では大変だと思う。岩手の小中高、若い人達が外国の人達と多く接する場を多く増やしてほしい。いっしょに体験する、それぞれの文化を知ること、コミュニケーションをとる。日常のあいさつだけでも知って、覚えておきたい。行事に積極的に参加すること。
- ・ 多文化共生という言葉は知らなかった。
震災後、津波被害にあった住居跡地に、外国人女性グループががれきのなかを物さがして歩いていた。警察官の方は「あの国では、災害で流れた物は、拾った人の物という考えだから始末が悪い」と言っていた。衣食住を奪われた時期なので、外国人は頼る人がなくて大変だろうと思ったが、今では「郷に入らば郷に従え」という言葉があるように文化の違い等を教えなければならぬと思う。外国人の受入には賛成。
- ・ 私の知っている外国人の方はとても積極的で日本人とコミュニケーションをとろうとし、すばらしいと思う。ふと思うのはスキー場や観光地のホテルでのマナーがあまり良くないように感じる。
- ・ 今回のアンケートで自分のまわりに他国から嫁いできている人が少なからず居ることに改めて気づいた。彼女たちは皆日本語が上手で普段からフレンドリーに付き合っていたので『外人』ということはほとんど意識していなかった。深い付き合いではないが、困った時にはいつでも手を差し伸べられる自分でありたいと思っている。
- ・ 日本では公衆浴場「タトゥー」者入浴が禁止であるが、外国人客の場合トップアスリートでもタトゥーを入れている人も沢山いる為「多文化共生」は容認すべき。ヌーディストでも日本の公衆浴場で入浴時替えパンツで入浴。それを日本人はいつもはいているパンツだと決めつけ、じろじろ見る。

○ 自身の今後の活動等

- ・ 特に構えることなく、人として交流していけばいいと思う。自分自身も学びながら…。
- ・ ラグビーワールドカップ・東京オリンピック等大イベントがある。多数の外国人が岩手に訪れると思う。岩手のいい所を積極的にPRしたいと思う。
- ・ 普段の活動範囲が狭いため、外国の方と交流することはないが、もし身近に接することがあればあまり身構える事なく交流したいとは思っている。

○ ILCに関すること

- ・ 最近、ニセコに外国人が増えてほぼ外国人の地区もあるというテレビの特集を見た。その地区ではもともといた人の他に外国人観光客のために仕事をしている外国人が増えてアパートの家賃が軒並み上がったとのこと。企業が進出してきた場合は、地元民の雇用が増えることがメリットとしてあげられるが、ILCなどで外国人のみが増えると当然住宅が不足する懸念は予想される。それに対してアパート以外に空き家対策などと連携して今使われていない住宅を活用する取り組みをしてほしい。
また、外国人が増えると家族での移住の場合、子どもが学校に通う。先生たちはただでさえ働きすぎで困っているところに言葉も通じなく文化も違うため、学習面だけでなく生活指導面で苦勞することが予想される。先日八幡平市にインターナショナルスクールが開校することが報道されたが、ILCがもし実現し、外国人の研究者が移住する場合は、その居住地国インターナショナルスクールを誘致する、または外国人向けのスクールを県で設置したほうがよいと思う。
- ・ ILC関連で来日滞在される方は、皆博士号を取得した高学歴の知識階層だと思う。母国では上流階層に属するので、そのことを差し引いておつきあいする必要があるのではないか。果たして地域住民と交流するか(できるか)、少し疑問。
- ・ ILCが実現しても関係者達のコミュニティーができ、地域住民との活発な交流は限られるのでは?と思う。

○ その他

- ・ 経済面や地域振興だけを追い求めないで、じっくり時間をかけて進めていってほしい。
- ・ 外国人の必要性が分からない。
- ・ 国や地域に囚われずに日本で仕事や生活できるようになることが目標だと思うが、それを実現するためいくつかハードルがあると思う。
日本国籍の国民は9年間の義務教育を受けたうえで社会にでているので、この国で暮らすための知識や文化がある程度教育された状態だが日本国民以外はそうではない。
各国の教育事情は千差万別だと思うが、日本とのギャップをどう埋めていくのかという点において個人的に気になる部分である。
- ・ 日本にまで来るんだから、日本についての思い・考えも生じるんだろう。
- ・ 外国人との接点がないので今回のアンケートは迷った。
- ・ 外国からお嫁に来た方も多く、農家などではなかなか自由な時間がなかったり外出も自由にできない方も多くいると聞く。日本のお嫁さんの扱いの改善も(意識改革)必要かと思う。
- ・ ラグビーワールドカップ釜石大会には外国人観光客が多く訪れると思う。外国人が気持ち良くスムーズに行動出来るような対策・対応をお願いしたい。
- ・ 問7(ILCに関する設問)で期待だけ聞いて、なぜ不安を聞かないのか。
- ・ 日本国は日常みても解るように少子高齢化が著しく進んでいるのは火を見るより分かります。大急ぎで外国人労働者の力を借りるべき。
- ・ 人口比でのバランスが問題。(アメリカはいずれ白人50%)日本は島国で慣れていない。
いたずらに観光地を世界文化遺産にしている日本は考えなければならない。本来は静かに大事にしなければならぬ。
- ・ 将来難民の問題が出てくる時がくる。難民と外国人の問題が気になり。
- ・ 東京と岩手では当分の間大きく異なる状況だと思うが観光で来県者が増えているので、対応の場に重点を置いては。
- ・ 教育支援をして人材確保をする。
外国人の雇用創出のために家族と一緒に暮らせるよう法で定める。